

学会ニュース

1998年10月30日

日本福祉学会主催 公開シンポジウム

ごあいさつ

日本社会福祉学会 会長 阿部 志郎

「原則は破られることによってその命を保つ」と言ったのはプレストです。

最近、改革流行で、行財政改革、教育改革、福祉改革となったわけだが、さらにビックバンといわれている。120億、150億年前に宇宙が創られ、たえず新しい元素を作りながら膨張を続けていると言われている。社会もある意味で膨張しつつけている。そしてそこから派生されるニードもまた膨らんでいる。とくに近頃ニードの一般化、高度化、多様化といわれ、50年前に創った原則、システムではもはや持ちこたえることはできない。それにどう持ちこたえるか、21世紀を目指しての展望を必要としているという認識になってきた。たしかに時は流れ、社会が変わり、住民の意識も変化してきた。高齢者社会に向けていかに新しいシステムを作っていくか、しかもそれは国連の用語を使えば、サステイナブル・デベロップメントを可能にするかということになる。

改革ということは簡単なことではない。だれしも状況を変えることにはそれほど積極的にはならない。現状に安住することの方が強いわけだが、これだけ大きな急激な変化の中に置かれている私共は新しい原則を目指さざるをえない。

今回の改革の一番の原点は、21世紀の福祉を誰が担うか、どういうしくみにおいてそれを作っていくかということではなからうかと思う。

長い間、福祉国家体制の中で、国家責任が強調されてきた。住民は税金を払い、社会保険料を負担することによって福祉に対する行政責任を追及するという姿勢を持ち続けてきた。しかし、社会が変わり、新しいニードが生まれると、私共の意識も大きく変わり、市民一人一人が福祉の担い手にならなくてはならないのではないか。その自立した市民が横につながり、連帯的に社会を構成していく。今回の報告書には連帯という言葉が使われているのは一ヶ所ではないかと思うが、しかし介護保険もまた新しい連帯という思想に立っているものと私は理解している。その市民的努力を支え、それを保障する公的責任の上に、公私が共同して役割を分担していくということとなる。

公私のパートナーシップという言葉が初めて使われた。公私が役割を分担し、民間は門戸を広げ民間産業にもそこに参入してもらい、新しいニードに対する新しい供給体制をつくらなければならない。しかし同時にその民間はサービスの質や効率、自己責任、経営の合理化という形において自己抑制が求められていると、私自身民間の立場として解釈している。

私がこの中間報告で感銘を受けたのは、今まで措置とか行政処分ということで、援助者と被援助者の関係が成り立っていたのを対等の関係に変える点である。いわば、人間と人間の信頼、ケースワークのいうパーソン・ツー・パーソンという人格的な信頼関係こそが新しい社会福祉の原点なのではないか、社会福祉の本質に立ち至ったというか立ち戻ったといえる。ここを出発点にして新しい原則、システムがここで考えられている。

改革は、あくまで模索である。模索には批判が伴う。行き過ぎというものや手ぬるいという批判である。そうした批判を受けて新しい模索とその作業をすることが、今回の中間報告は大きな意味がある。先ほど古川教授からお話があったように、この日本社会福祉学会は、カレントトピックスとしての政策に対しては消極であった。自由研究としては様々の活動をしてきたが、学会としてそれに対応して発言をすることをしてこなかった。しかし三年前からいささか方針を変えた。

今回も、情報提供をして論議の場を設けることが役割だと思っている。そうした趣旨でこのシンポジウムを開催した。学会に厚生省の局長が出席して参加することはなかったが、一昨年は児童家庭局長がお出ましなされたし、今日は炭谷社会・援護局長が参加をしてくださった。基礎構造改革についての報告をし、さらに問題を提起しようという、私は炭谷さんの積極的な姿勢を高く評価し、ご出席に心からお礼を申し上げたい。

今日一日実り豊かな学びのときとしたい。

(1998.9.23 公開シンポジウムより)

公開シンポジウム 全国3ヶ所で開催

テーマ：社会福祉基礎構造改革

9月23日、日本社会福祉学会主催の公開シンポジウムの一番手として、駒澤大学（東京）において開催されたシンポジウムは、約400名の参加者を得ることができました。シンポジウムの中では、シンポジストたちが、それぞれの見解を述べ有意義な意見交換が行われました。その後、一般質問にはいり、フロアからも数多くの質問があり、大変盛り上がりました。

炭谷局長の講演内容については、次号にて掲載する予定です。

基 調 講 演：炭谷 茂（厚生省社会・援護局長）

シンポジウム：シンポジスト 吉村 靱生（大阪自強館理事長）

福武 総一郎（ベネッセコーポレーション社長）

橋本 宏子（神奈川大学教授）

コメンテーター 京極 高宣（日本社会事業大学学長）

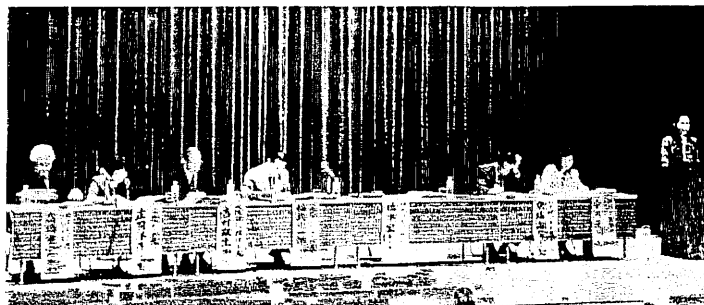
安岡 厚子（田無市市議会議員・NPOサポートハウス年輪）

コーディネーター 庄司 洋子（立教大学教授）

高橋 重宏（駒澤大学教授・担当理事）



講演する炭谷厚生省社会・援護局長



意見を述べるシンポジストたち

公開シンポジウム感想

不 易 流 行

国際医療福祉大学 鈴木 五郎

改革をすすめる時には、変えてはならない守るべきものと、大胆に改革すべきものを峻別することがまず大事だといわれる。しかし、この言葉は大変抽象的で具体的な社会福祉基礎構造改革



に当てはめてみようとするはなかなか難しい。

炭谷茂局長のお話は、ある種の感動をもつてうかがった。次の21世紀に展開する福祉の哲学はなかなか素晴らしいと思った。私なりの受け止め方なので正しいかどうかわからないが、お話では利用者の人権を具体化するためサービス提供者とのあいだに契約という概念を導入して対等の関係をつくりあげる。従来、社会福祉事業者は当然自分達が子供や高齢者の代弁者としても役割をもっていると思い込んできたが、そうではなくてあくまでもサービス提供者としての立場に徹して責任と義務をはたさなければならない。代弁は成年後見制度のような形で別途仕掛けを考えるとということと理解した。

吉村理事長のお話は明快である。全国の社会福祉法人の代表的な立場にある言村さんの措置制度はもう時代にあわないから変えるべきであるという発言をきいて時代の変革が音を立てて流れていくような気がした。

社会福祉の仕事に30数年かかわってきた立場でみると、福祉系の大学は課題が多く時代の要求に対応できていないもどかしさを感じる。本来福祉専門職の仕事と理解してきた相談援助の領域が、ケアマネジャー資格や精神保健福祉士として他の専門職との入会地のように展開していく。福祉固有の専門性をどのように担保していくのだろうか。もっと臨床に即した教育でなければならない。大学の改革も基礎構造改革の重要な柱の一つのように思えるがどうだろうか。

感想

社会福祉基礎構造改革 シンポジウムに参加して

駒澤大学文学部社会学科3年 林 美保

私は社会福祉基礎構造改革のシンポジウムに参加して、今回の改革が社会生活の変化から必要となったこと、これまでの社会福祉とは根本の考え方が全く違うこと等が分かりました。また、シンポジウムのパネリストの方々は、各立場の視点でこの改革を受けとめ発言されていたので、その内容は興味深く「これ程違うものか」と感じました。

今回の社会福祉基礎構造改革の中で、私が特に関心を持ったのは社会福祉法人のあり方についてです。

社会福祉法人は、現在の社会福祉においては、国や県など公からの援助があり、又運営についても措置制度によって保護されてきたととらえることができるでしょう。逆に言えば保護されてきたことにより、施設は基盤を整え充実したサービスの提供が行われるようになったと言えるのかもしれませんが。しかし反面で「彩福祉グループ」事件で代表されるように、福祉施設の不当な運営の問題が起こっているのも事実であります。これまで、全く守られてきた福祉施設

の運営に、「自分で行う」という考え方が出てきたのは当然のことだと思います。

しかし、今まで「経営」が行われていなかった施設にとっては今回の改革はとても厳しい状況に追い込まれるのではないのでしょうか。施設を自分たちで経営することは、半分は企業化するようなものではないかと思います。自分でいかにしてお金をつくり、そのお金をどう使うかによって、その施設の未来がとらえられます。企業なら営利追求が当たり前ですが、福祉施設はそうではなく、そのバランスが難しいのではないのでしょうか。私が最も関心をもっているのは、営利追求の施設が、若しくは営利追求せざるをえない施設が増えてしまうのではないかということです。経営という観点から、ゆとりある充実したサービスが本当に出来るのかと疑問に思います。施設の上に立つ人の考え次第では、「会社」となってしまうのではないのでしょうか。

そういう意味で、私は社会福祉法人の今後のあり方について、国からの指導、ある程度の補助体制が必要なのではないかと思いました。

このシンポジウムに参加して、参加者が遠方から来ている人が多くいることに驚き、そしてその方々の真剣さに深く感じ入りました。この福祉の大転換期において、やはり自ら勉強していかなければと感じました。



1998年度日本社会福祉学会 公開シンポジウム

テーマ：社会福祉基礎構造改革

I. 中 四 国 部 会

主 催 日本社会福祉学会

岡山県介護福祉研究会

中国四国介護福祉学会

期 日：1998年11月7日（土）13：00～17：00

会 場：衛生会館5階中ホール

（岡山市古京町1番1）Tel：086-272-3275

会 費：1,000円（会員）、1,500円（非会員）

定 員：100人

申 込：当日受付にてお申し込み下さい

【プログラム】

13：00 あいさつ

13：15～14：15

講 演 『公的介護保険が社会保障を変える』

増田 雅暢（国立社会保障・人口問題研究所総合企画部第一室長）

14：30～15：30

基調講演 『中央社会福祉審議会社会福祉構造改革分科会・

社会福祉基礎構造改革について（中間まとめ）』

大泉 博子（山口県副知事）

15：40～17：00

シンポジウム『社会福祉基礎構造改革』

シンポジスト 大泉 博子（山口県副知事）

小田 兼三（龍谷大学教授・日本社会福祉学会理事）

岡崎 仁史（広島県社会福祉協議会地域福祉課長）

他

コーディネーター

高橋 重宏（駒澤大学教授・日本社会福祉学会担当理事）

お問い合わせ先：

中国四国介護福祉研究学会（担当：住居広士）

〒723-0053 広島県三原市学園町1番1 広島県立保健福祉短期大学

Tel&Fax：0848-60-1211



日本社会福祉学会事務局（担当：春山陽子）
〒160-0008 東京都新宿区三栄町8 森山ビル西館501
Fax:03-3358-2204

Ⅱ．東 北 部 会

期 日：平成10年11月21日（土）・22日（日）

会 場：東北福祉大学

申込期限：当日受付にてお申し込み下さい。

参加費：1,000円（資料代込） 学生無料

懇親会費：3,000円

〈第一日目〉平成10年11月21日（土）

14：00～17：00 日本社会福祉学会公開シンポジウム

テーマ：「社会福祉基礎構造改革とは何か」

会 場：東北福祉大学 けやきホール

シンポジスト 大澤 隆（東洋英和女学院大学人間科学部教授）

戸田 隆一（福島大学行政社会学部教授）

長澤 文龍（全国社会福祉施設経営者協議会副会長）

コメンテーター 小笠原浩一（埼玉大学大学院経済科学研究科教授・経済博士）

遠藤 恵子（東北学院大学教養学部教授・社会学）

コーディネーター 三浦 文夫（日本地域福祉学会会長・分科会委員）

相沢 宏邦（全国精神保健福祉センター会長 会長）

17：30～19：30 懇親会 会場：東北福祉大学 本館4階ラウンジ

〈二日目〉平成10年11月22日（日）

9：30～10：30 研究発表

テーマ：「現場の中で社会福祉基礎構造改革の課題を考える」

会 場：東北福祉大学 各講義室（未定）

1. 高齢者福祉部会 せんだんの杜2名（交渉中）

2. 障害者福祉部会 菊池 昌三（精神薄弱者更生施設 第二共生園園長）

八巻 幹夫（東北会病院ケースワーカー）

3. 児童・家族福祉部会 西條 祥樹（仙台市児童相談所）

神戸 信行（児童養護施設青葉学園園長）

13：00～15：00 総括講演

「社会福祉基礎構造改革とは何か」阿部 志郎（横須賀基督教社会館館長・分科会委員）

お問い合わせ先：

宮城県ソーシャルワーカー協会事務局（担当：金崎）

〒981-0906 仙台市青葉区小松島新堤7番1号 社会福祉法人仙台キリスト教育児院内

Tel.022-234-6303 Fax.022-234-6304



日本社会福祉学会インフォメーション

第3回北海道社会福祉合同研究会大会開催要綱

テーマ：「いい福祉つくろう、北海道発！領域と職域を越えて、
—社会福祉実践の共通基盤を探る—」

日時 1998年11月7日（土）10：00～17：00 11月8日（日）9：30～13：00

会場 札幌市社会福祉総合センター

〒060-0042 札幌市中央区大通西19丁目

〔地下鉄東西線西18丁目駅下車1番出口より徒歩1分〕

定員・対象 300名（各団体会員および福祉に関心のある一般の参加者）

参加費用 参加費 各団体会員・一般参加者 3,000円（学生2,000円）

懇親会費 5,000円（申込者のみ）

会場：KKR札幌（札幌市中央区北4条西5丁目 TEL.011-231-6711）

日程・内容

〈第一日目〉

9：00～10：00 受付
10：00～10：30 開会式
10：30～12：00 記念講演
12：00～13：00 昼食
13：00～14：20 基調講演
14：30～17：00 シンポジウム
18：00～19：30 懇親会

〈第二日目〉

9：00～9：30 受付
9：30～12：00 分科会
12：10～12：50 全体会
12：50～13：00 閉会式
13：00～ 各団体フリー

1. 記念講演 テーマ：「社会福祉実践の共通基盤を探る」
講演者：仲村 優一（淑徳大学社会福祉学部教授）
2. 基調講演 テーマ：「社会福祉基礎構造改革の基本理念と展望」
講演者：炭谷 茂（厚生省社会・援護局長）
3. 大会シンポジウム テーマ：「社会福祉基礎構造改革の理想と現実」
司会：吉村 信義（北海道女子大学人間福祉学部教授）
シンポジスト：
横井 寿之（当麻町かたるべの森設立準備室代表）
本間 和彦（遠軽町福祉課主幹）
伊藤 淑子（北海道医療大学看護福祉学部教授）
コメンテーター：
炭谷 茂（厚生省社会・援護局長）

【お問い合わせ先】北海道社会福祉学会事務局 〒061-0293北海道石狩郡当別町金沢1757

北海道医療大学看護福祉学部 鈴木幸雄研究室

Tel.01332-3-1211（内線3610） Fax.01332-3-4440

関西社会福祉学会設立大会・日本社会福祉学会関西部会例会

テーマ：「福祉ビッグバン—利用者にとっての介護保険制度とは—」

日程 1998年11月29日（日）

会場 神戸女子短期大学 三宮学舎（5F大教室）

受付 午後12時30分より

時間 午後1時～午後6時

1. 記念講演 講師：R. ピンカー（ロンドン大学）



通 訳：小田 兼三（龍谷大学）

テーマ：「イギリスにおけるケアマネジャーの動向」

—『1990年国民保健サービス及びコミュニティケア法』以降—

2. 研究報告・課題提議

テーマ：「利用者にとっての介護保険とは」—介護基盤整備と要介護認定—

研究報告 1：真辺 一範（おおくら在宅介護支援センターSW）

研究報告 2：藤原 苗（関西学院大学大学院博士後期課程）

コメンテーター：成清 美治（神戸女子大学）

インフォメーション

日本学術会議

シンポジウム「少子社会と子育て支援システムのあり方」のお知らせ

主 催 日本学術会議 社会福祉・社会保障研究連絡委員会

日 時 平成10年11月15日（日） 10：30～16：00（12：30～13：30昼食）

会 場 大正大学（地下鉄都営三田線西巢鴨駅下車徒歩3分）

東京都豊島区西巢鴨3-20-1 電話03-3918-7311（代）

次 第 司 会 大橋 謙策（社会福祉・社会保障研究連絡委員会幹事、日本社会事業大学教授）

(1) 開会挨拶 仲村 優一（日本学術会議第1部会員、社会福祉・社会保障研究連絡委員会委員長、淑徳大学学術顧問）

(2) 会場挨拶 藤井 正雄（大正大学文学部長）

(3) 基調講演 吉沢 英子（社会福祉・社会保障研究連絡委員会委員、大正大学教授、日本児童学会常務理事）

(4) シンポジウム

コーディネーター 高橋 重宏（駒澤大学教授、日本社会福祉学会理事）

シンポジスト ①行政から 河津 英彦（東京都地域福祉推進部長、前子ども家庭部長）

②現場から 田口 信一（白鳥こども・家庭支援センター長）

③現場から 鮎京真知子（児童虐待防止センター弁護士）

④研究者から 椋野美智子（日本社会事業大学教授、前厚生省情報化・地域政策推進室長）

ルーテル学院大学 国際社会福祉講演会

「これからの地域福祉 イギリスの社会福祉に学ぶ」

…イギリスにおける1990年コミュニティケア法以降の

ケアマネジメントの動向…

講演者 ロバート・ピンカー氏（ロンドン大学ロンドン・スクール オブ エコノミックス教授
イギリスプライバシー委員会委員長）

日 時 1998年12月5日（土） 15：00～17：00（入場14：30～）

会 場 ルーテル学院大学 ブラウンホール

司 会 市川 一宏（ルーテル学院大学社会福祉学科教授）

通 訳 中村 克孝（ルーテル学院大学教授）

定 員 100名（参加費1,000円）

申込方法 参加ご希望の方は事前にルーテル学院大学社会福祉研究室までお申し込み下さい。

担当 松田・黒澤・園山

<TEL> 0422-31-7920（直通）火曜日～土曜日9時～17時

<FAX> 0422-34-4481（直通）氏名・所属・連絡先をお書き下さい。

<はがき> 〒181-0015 三鷹市大沢3-10-20 ルーテル学院大学 社会福祉研究室

*お車での御来場はご遠慮下さい。必要やむをえない方はご連絡下さい。



第19期日本社会福祉学会理事・監事

10月17日(土)の総会で、下記の方々が19期の役員として承認されました。総会については次号でお知らせします。

役職名	名前
会長	大橋 謙策
会長職務代行・関西担当理事	岡本 民夫
総務担当理事	高橋 重宏
研究担当理事	小田 兼三
渉外担当理事	古川 孝順
機関誌担当理事	白澤 政和
庶務担当理事	田端 光美
北海道部会担当理事	杉村 宏
東北部会担当理事	佐藤 嘉夫
関東部会担当理事	山崎美貴子
中部部会担当理事	高島 進
中四国部会担当理事	鈴木 勉
九州部会担当理事	保田井 進
理事	一番ヶ瀬康子
理事	右田紀久恵
理事	岡本 栄一
理事	京極 高宣
理事	田代 国次郎
理事	三浦 文夫
理事	宮田 和明
監事	中垣 昌美
監事	佐藤 進

●日本社会福祉学会では、1998年度の社会福祉基礎構造改革をテーマに全国3ヶ所で公開シンポジウムを計画しています。東京では、9月23日に駒澤大学で400人の参加を得て開催されました。ニュースでご案内のとおり11月7日(土)岡山市(衛生会館5階中ホール)、11月21日(土)仙台市(東北福祉大学)で開催します。ぜひ、会員のご参加とともに、会員以外の方々のご参加も期待しています。知り合いをお誘い下さい。

●1998年10月18日現在、学会の会員は3,354人です。第47回全国大会は1999年10月9日(土)・10日(日)に川崎医療福祉大学で開催されます。この大会で報告を希望される方は、1999年3月までに学会の会員になることが必要です。共同研究の場合も会員以外の名前の掲載はできません。ご注意下さい。

●学会の理事会は大会総会の承認を得て第18期(阿部志郎会長)から第19期(大橋謙策会長)に交代しました。第19期の理事会は2001年の大会終了までの任期になります。

●このニュースは、第18期理事会が編集発行する最後のものです。会員の皆様のご協力・ご支援に心から感謝申し上げます。第19期理事会によってより充実したニュースの発行を祈念しております。(高橋重宏 庶務担当理事)

学会ニュース 編集後記

●日本社会福祉学会第46回全国大会は10月17日(土)・18日(日)明治学院大学で1,500人の参加をえて開催されました。その報告は次号のニュースに掲載します。山崎美貴子委員長をはじめご尽力いただいた明治学院大学の教職員、大学院生、学生さんたちに心からのお礼を申し上げます。

事務局連絡

▼第46回全国大会は、悪天候にもかかわらず本当に多数の方がニイリエ氏の講演やシンポジウム等大変熱心に参加されていました。

▼「社会福祉学」へ投稿される方へのお願い。おかげで投稿論文数が増えています。事務局にお送り頂く際に、別紙に会員No、名前、所属、連絡先を書いて論文に同封して下さい。(事務局・春山)

＊	発行人 阿部 志郎	学会ニュース 1998年度No.3	＊
	編集人 古川 孝順		
	発行日 1998年10月30日		
	発行 日本社会福祉学会		
	〒160-0008 東京都新宿区三栄町8 森山ビル西館501		
＊	TEL.03-3356-7824 FAX.03-3358-2204		＊